

令和6(2024)年度病害虫発生予察特殊報第1号

令和6(2024)年10月28日
栃木県農業総合研究センター

トマトキバガの誘殺について

1 害虫名 トマトキバガ *Tuta absoluta* (Meyrick)

2 発生植物名：－（性フェロモントラップへの誘殺）

3 誘殺経過

令和6(2024)年10月、栃木市と芳賀町に設置したトマトキバガの性フェロモントラップにおいて、本種と疑われるキバガ科の成虫が誘殺された（図1）。農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、本種であることが判明した。なお、栃木県内のトマト及びミニトマトの栽培ほ場では、令和6(2024)年10月28日現在、本種による被害は確認されていない。

4 被害の特徴

ナス科植物が主要な寄主植物であるが、マメ科のインゲンマメも寄主植物として確認されている。トマトでは、茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成される。葉の食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる（図2）。ハモグリバエ類では線的な食害痕となるのに対し、トマトキバガでは面的な食害痕となる。果実では、幼虫がせん孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に直径数mm程度の穴が空いて腐敗する（図3）。

5 形態

成虫（図4）は、翅を閉じた静止時で体長5～7mm（前翅長約5mm、開張約10mm）である。前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在し、後翅は一律に淡黒褐色である。幼虫（図5）は、終齢で約8mmとなる。体色は淡緑色～淡赤白色で、頭部は淡褐色である。前胸の背面後方に細い黒色横帯がある。

6 生態

1年に複数の世代が発生し、繁殖力が高い。発生世代数は環境条件によって異なり、年に10～12世代発生する地域もある。卵から成虫になるまでの期間は24～38日程度だが、気温が低い時期はさらに長くなる。卵は、寄主植物の葉の裏面などに産み付けられる。幼虫は1～4齢までの生育ステージがあり、土中や葉の表面で蛹化する。成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多い。

7 防除対策

- 被害の特徴を把握し、ほ場内をよく見回り早期発見に努め、疑わしい成虫、幼虫、被害葉、被害果実を見つけた際は、ビニル袋に密閉し最寄りの農業振興事務所に連絡する。
- 施設栽培では、本種の施設内への侵入を防ぐため、また、コナジラミ類対策も兼ねてハウスの開口部に0.4mm目合いの防虫ネットを設置する。なお、ネット等の破れや、すき間からも侵入するため、必ず補修する。
- ほ場で発生が認められた場合には、発生を拡大させないため、トマトキバガに登録のある農薬を散布する（表）。必ず、最新の農薬登録情報を確認し、薬剤感受性の低下を防ぐため、系統（RACコード）が異なる農薬でローテーション防除を行う。

(4) ほ場や露地に放置された収穫残渣、被害葉及び被害果実は、本種の増殖源となるため、速やかに土中深く埋却するか、ビニル袋で一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させたうえで、適切に処分する。

(5) 作物の栽培終了時には、作物を地際から切断し、一定期間施設を密閉して本種を死滅させた上で、残渣を適切に処分する。



図1 フェロモントラップに誘殺された雄成虫



図2 トマト葉の食害痕



図3 トマト果実の食害痕



図4 成虫



図5 終齢幼虫

※図2～5：農林水産省植物防疫所原図

表 トマト・ミニトマトのトマトキバガに登録のある主な農薬（令和6（2024）年10月24日現在）

農薬名	登録作物 ^{注1)}		希釈倍数 及び 使用量	使用時期	使用方法	本剤の 使用回数	RAC コード ^{注2)}
	トマト	ミニ トマト					
ディアナ SC	○	○	2500~5000 倍	収穫前日まで	散布	2 回以内	I:5
ラディアント SC	○	○	2500~5000 倍	収穫前日まで	散布	2 回以内	I:5
ダブルシューターSE	○	○	1000 倍	収穫前日まで	散布	2 回以内	I:未,5
アグリメック	○	×	500~1000 倍	収穫前日まで	散布	3 回以内	I:6
アニキ乳剤	○	○	1000 倍	収穫前日まで	散布	3 回以内	I:6
アフーム乳剤	○	○	2000 倍	収穫前日まで	散布	5 回以内	I:6
エスマルク DF	○	○	1000 倍	発生初期但し、収穫前日まで	散布	—	I:11A
チューンアップ顆粒水和剤	○	○	2000 倍	発生初期但し、収穫前日まで	散布	—	I:11A
コテツフロアブル	○	○	2000 倍	収穫前日まで	散布	3 回以内	I:13
トルネードエース DF	○	×	2000 倍	収穫前日まで	散布	2 回以内	I:22A
ファイントリム DF	○	×	2000 倍	収穫前日まで	散布	2 回以内	I:22A
アクセルフロアブル	○	○	1000 倍	収穫前日まで	散布	3 回以内	I:22B
ベネビア OD	○	○	2000 倍	収穫前日まで	散布	3 回以内	I:28
ベリマーク SC	○	○	400 株 当り 25mL（散布液 量:400 株当り 10~20L（1 株当 り 25~50mL））	育苗期後半～ 定植当日	灌注	1 回	I:28
フェニックス顆粒水和剤	○	○	2000 倍	収穫前日まで	散布	2 回以内	I:28
プリロッソ粒剤	○	○	2g/株	育苗期後半～ 定植時	株元 散布	1 回	I:28
ヨーバルフロアブル	○	○	2500 倍	収穫前日まで	散布	3 回以内	I:28
グレーシア乳剤	○	○	2000 倍	収穫前日まで	散布	2 回以内	I:30
プレオフロアブル	○	○	1000 倍	収穫前日まで	散布	2 回以内	I:UN

注1：「○」は登録があることを、「×」は登録がないことを示す。

注2：薬剤感受性の低下を防ぐため、RAC コードの異なる農薬のローテーション散布を行う。

詳細は、農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（TEL 028-665-1244）までお問合せ下さい。
 病害虫情報発表のお知らせは「栃木県農政部 X(@tochigi_nousei)」、農業総合研究センターホーム
 ページ（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>）でもご覧になれます。

